

2019 年 11 月 26 日

一般社団法人 投資信託協会  
会長 松谷 博司 殿

さわかみ投信株式会社  
代表取締役社長 澤上 龍 ㊞

## 正会員の財務状況等に関する届出書

当社の財務状況等に係る会計監査が終了いたしましたので、貴協会の定款の施行に関する規則第 10 条第 1 項第 17 号イの規定に基づき、下記のとおり報告いたします。

### 1. 委託会社等の概況

#### (1) 資本金の額 (2019 年 10 月末日現在)

資本金の額	320 百万円
発行する株式の総数	3,600 株
発行済株式総数	3,600 株
最近 5 年間における資本金の額の増減	該当事項はありません。

#### (2) 委託会社等の機構 (2019 年 10 月末日現在)

##### ① 会社の機構

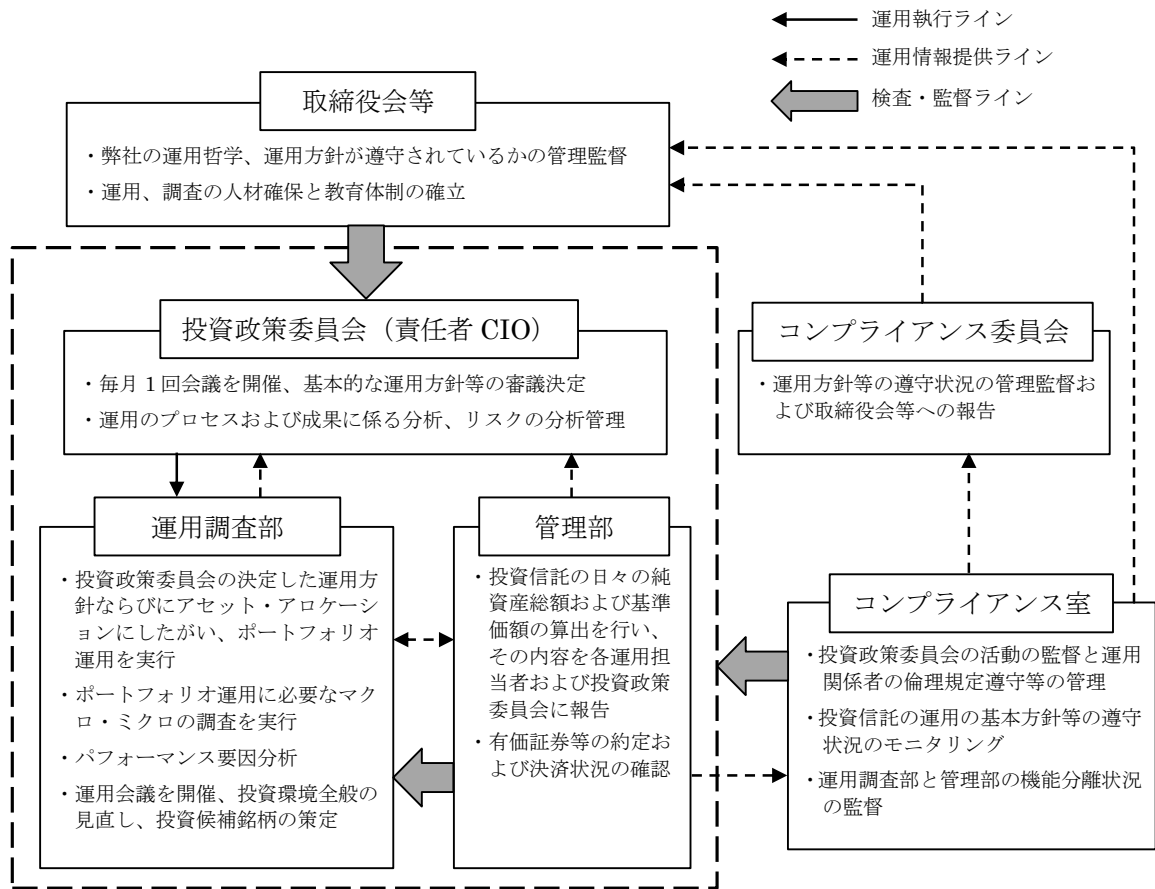
委託会社の業務執行の最高機関は取締役会であり、株主総会にて選任された 3 名以上の取締役で構成されます。取締役の選任は、議決権を行使できる株主の 3 分の 1 以上にあたる株式を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもってこれを行い、累積投票によらないものとします。

取締役の任期は、選任後 2 年以内の最終の決算期に関する定時株主総会の終結の時までとし、補欠または増員により選任された取締役の任期は、前任者の残任期間とします。

取締役会は、その決議をもって、代表取締役を選任します。

取締役会は、法令または定款に定める事項のほか、業務執行に関する重要事項を決定します。

## ②投資運用の意思決定機構



## 2. 事業の内容及び営業の概況

委託会社は、「投信法」に定める投資信託委託会社として、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）およびその受益権の募集（第二種金融商品取引業）を行っています。

2019 年 10 月末日現在、委託会社が運用の指図を行っている証券投資信託は、追加型株式投資信託 1 本のみであり、その純資産総額は 310,059,477,017 円です。

### 3. 委託会社等の経理状況

- (1) 委託会社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）により作成しております。  
なお、財務諸表に記載している金額は、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
- (2) 委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、東陽監査法人により監査を受けております。
- (3) 委託会社の中間財務諸表は、「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）ならびに同規則第38条及び第57条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）に基づいて作成しております。なお、中間財務諸表に記載している金額については、千円未満の端数を切り捨てて表示しております。
- (4) 委託会社の中間財務諸表については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、東陽監査法人の中間監査を受けております。

## 独立監査人の監査報告書

2019年6月6日

さわかみ投信株式会社  
取締役会 御中

東陽監査法人  
指定社員  
業務執行社員 公認会計士 高木康行 印  
指定社員  
業務執行社員 公認会計士 猿渡裕子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているさわかみ投信株式会社の2018年4月1日から2019年3月31日までの第23期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、さわかみ投信株式会社の2019年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

(注) 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

## (1) 【貸借対照表】

(単位：千円)

	第22期事業年度 (2018年3月31日現在)	第23期事業年度 (2019年3月31日現在)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,133,702	2,344,478
直販顧客分別金信託	542,199	349,000
未収委託者報酬	305,139	281,673
前払費用	6,553	7,194
その他	3,159	8,918
流動資産合計	2,990,754	2,991,264
固定資産		
有形固定資産 ※1		
建物 (純額)	55,214	47,688
器具備品 (純額)	3,502	10,206
リース資産 (純額)	8,500	4,420
有形固定資産合計	67,217	62,314
無形固定資産		
ソフトウェア	17,878	8,816
その他	45	—
無形固定資産合計	17,923	8,816
投資その他の資産		
投資有価証券	1,041,044	966,687
長期差入保証金	55,826	61,805
その他	11,886	17,674
投資その他の資産 合計	1,108,757	1,046,166
固定資産合計	1,193,898	1,117,297
資産合計	4,184,653	4,108,561

(単位：千円)

	第22期事業年度 (2018年3月31日現在)	第23期事業年度 (2019年3月31日現在)
負債の部		
流動負債		
リース債務	4,406	4,406
預り金 ※2	367,099	167,716
未払金	66,227	65,818
未払法人税等	327,001	221,399
未払消費税等	46,647	23,482
賞与引当金	18,000	17,000
マイナンバー関連引当金	71,722	61,018
流動負債合計	901,105	560,842
固定負債		
リース債務	4,773	367
繰延税金負債	105,707	86,861
資産除去債務	37,158	37,209
固定負債合計	147,639	124,438
負債合計	1,048,744	685,280
純資産の部		
株主資本		
資本金	320,000	320,000
利益剰余金		
利益準備金	80,000	80,000
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	2,384,386	2,723,347
利益剰余金合計	2,464,386	2,803,347
株主資本合計	2,784,386	3,123,347
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	351,522	299,933
評価・換算差額等合計	351,522	299,933
純資産合計	3,135,908	3,423,280
負債・純資産合計	4,184,653	4,108,561

## (2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	第22期事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	第23期事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
営業収益		
委託者報酬	2,829,529	2,769,583
その他売上	5,976	9,432
営業収益合計	2,835,505	2,779,016
営業費用		
支払手数料	229,800	254,914
広告宣伝費	138,311	109,079
調査費	14,610	14,420
委託計算費	31,240	30,968
営業雑経費	180,386	185,281
通信費	115,179	113,342
印刷費	18,521	33,586
その他	46,686	38,352
営業費用合計	594,350	594,664
一般管理費		
給与	373,559	397,581
役員報酬	61,370	69,920
給与手当	290,723	294,629
賞与	21,466	33,032
法定福利費	51,096	55,361
賞与引当金繰入額	18,000	17,000
業務委託費	38,761	28,826
交際費	668	1,614
旅費交通費	27,111	26,074
租税公課	26,926	25,963
不動産賃借料	59,107	66,083
固定資産減価償却費	56,126	24,026
その他	72,350	62,963
一般管理費合計	723,707	705,495
営業利益	1,517,447	1,478,855

(単位：千円)

	第22期事業年度 (自 2017年 4月 1日 至 2018年 3月 31日)	第23期事業年度 (自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月 31日)
営業外収益		
受取利息	20	23
雑収入	56	119
営業外収益合計	77	143
営業外費用		
支払利息	2,249	2,202
雑損失	594	481
営業外費用合計	2,843	2,683
経常利益	1,514,681	1,476,316
税引前当期純利益	1,514,681	1,476,316
法人税、住民税及び事業税	478,976	449,431
法人税等調整額	△10,622	3,922
法人税等合計	468,353	453,354
当期純利益	1,046,328	1,022,961



## (3) 【株主資本等変動計算書】

第22期事業年度（自 2017年4月1日 至 2018年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	利益準備金	利益剰余金		株主資本合計
			その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	320,000	80,000	2,072,861	2,152,861	2,472,861
当期変動額					
剰余金の配当			△734,803	△734,803	△734,803
当期純利益			1,046,328	1,046,328	1,046,328
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	—	311,524	311,524	311,524
当期末残高	320,000	80,000	2,384,386	2,464,386	2,784,386

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	253,600	253,600	2,726,461
当期変動額			
剰余金の配当			△734,803
当期純利益			1,046,328
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	97,922	97,922	97,922
当期変動額合計	97,922	97,922	409,447
当期末残高	351,522	351,522	3,135,908

第23期事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	利益剰余金			株主資本 合計
		利益準備金	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計	
当期首残高	320,000	80,000	2,384,386	2,464,386	2,784,386
当期変動額					
剰余金の配当			△684,000	△684,000	△684,000
当期純利益			1,022,961	1,022,961	1,022,961
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当期変動額合計	—	—	338,961	338,961	338,961
当期末残高	320,000	80,000	2,723,347	2,803,347	3,123,347

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	351,522	351,522	3,135,908
当期変動額			
剰余金の配当			△684,000
当期純利益			1,022,961
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	△51,589	△51,589	△51,589
当期変動額合計	△51,589	△51,589	287,372
当期末残高	299,933	299,933	3,423,280

## 重要な会計方針

### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

#### その他有価証券

##### 時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については定額法）を採用しております。また、主な耐用年数は以下の通りであります。

建物 13年～15年

器具備品 4年～15年

#### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

#### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### 3. 引当金の計上基準

#### (1) 賞与引当金

従業員賞与の支給に備えるため、支給見込み額に基づき当事業年度に見合う分を計上しております。

#### (2) マイナンバー関連引当金

顧客マイナンバー収集等に備えるため、費用見込みについて合理的に見積ることができるものについて計上しております。

### 4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

#### 消費税等の処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

## 表示方法の変更

（『税効果会計に係る会計基準』の一部改正』の適用に伴う変更）

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。）を当事業年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しました。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」44,438千円は、「固定負債」の「繰延税金負債」105,707千円に含めて表示しております。

注記事項

(貸借対照表関係)

※1 有形固定資産より控除した減価償却累計額

(単位：千円)

	第22期事業年度 (2018年3月31日現在)	第23期事業年度 (2019年3月31日現在)
建物	28,535	36,062
器具備品	27,160	28,672
リース資産	11,900	15,980

※2 預り金

(単位：千円)

	第22期事業年度 (2018年3月31日現在)	第23期事業年度 (2019年3月31日現在)
投資信託の直接販売に伴う 顧客からの預り金	41,549	7,464

(損益計算書関係)

該当事項はありません。

(株主資本等変動計算書関係)

第22期事業年度(自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

1. 発行済株式に関する事項

(単位:株)

株式の種類	第22期事業年度期首 株式数	増加	減少	第22期事業年度末 株式数
普通株式	1,080	—	—	1,080
甲種類株式 ※	2,520	—	—	2,520
合計	3,600	—	—	3,600

※甲種類株式は、議決権を有しない種類株式であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の 種類	配当金の 総額(千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2017年6月15日 定時株主総会	普通 株式	100,440	93,000	2017年3月31日	2017年6月15日
2017年6月15日 定時株主総会	甲種類 株式	234,360	93,000	2017年3月31日	2017年6月15日

決議	株式の 種類	配当金の 総額(千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2017年9月21日 臨時株主総会	普通 株式	120,000	111,112	2017年8月31日	2017年9月21日
2017年9月21日 臨時株主総会	甲種類 株式	280,002	111,112	2017年8月31日	2017年9月21日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の 種類	配当の 原資	配当金の 総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年6月15日 定時株主総会	普通 株式	利益 剰余金	129,600	120,000	2018年3月31日	2018年6月15日
2018年6月15日 定時株主総会	甲種類 株式	利益 剰余金	302,400	120,000	2018年3月31日	2018年6月15日

第23期事業年度（自 2018年4月1日 至 2019年3月31日）

1. 発行済株式に関する事項

(単位：株)

株式の種類	第23期事業年度期首 株式数	増加	減少	第23期事業年度末 株式数
普通株式	1,080	—	—	1,080
甲種類株式 ※	2,520	—	—	2,520
合計	3,600	—	—	3,600

※甲種類株式は、議決権を有しない種類株式であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の 種類	配当金の 総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年6月15日 定時株主総会	普通 株式	129,600	120,000	2018年3月31日	2018年6月15日
2018年6月15日 定時株主総会	甲種類 株式	302,400	120,000	2018年3月31日	2018年6月15日

決議	株式の 種類	配当金の 総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2018年9月19日 臨時株主総会	普通 株式	75,600	70,000	2018年8月31日	2018年9月19日
2018年9月19日 臨時株主総会	甲種類 株式	176,400	70,000	2018年8月31日	2018年9月19日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の 種類	配当の 原資	配当金の 総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2019年6月14日 定時株主総会	普通 株式	利益 剰余金	129,600	120,000	2019年3月31日	2019年6月14日
2019年6月14日 定時株主総会	甲種類 株式	利益 剰余金	302,400	120,000	2019年3月31日	2019年6月14日

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引

(1) 所有権移転ファイナンス・リース取引

該当事項はありません。

(2) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

①リース資産の内容

有形固定資産 顧客送付レポート作成に使用する印刷機等であります。

②リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

2. オペレーティング・リース取引

該当事項はありません。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、設備投資計画に照らして、必要な資金（主に銀行借入や社債発行）を調達しております。余資は当社が運用指図するさわかみファンドで運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

未収委託者報酬は、さわかみファンドに対する営業債権であります。当該債権は、さわかみファンドの毎計算期間の11月23日、最初の6ヶ月の終了日、5月23日及び毎計算期末（ただし、11月23日と5月23日については、当該日が休業日のときは翌営業日）の翌営業日に当社に入金されるものであり、入金までの期間においては、信託銀行により分別保管されているため、信用リスクはほとんどないと認識しております。

投資有価証券は、当社が運用指図するさわかみファンドのみであり、市場価格の変動リスクに晒されております。

営業債務である未払金は、そのほとんどが1ヶ月以内の支払期日であります。また、営業債務には外貨建ての債務は含まれておらず、市場リスク等はないと認識しております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権である未収委託者報酬は、さわかみファンドの基準価額の算出の際に管理部において日々算出・管理されており、また、同時に受託銀行においても同様に算出・管理され、両社により日々照合管理しております。また、その営業債権は、当社に入金されるまでの期間は受託銀行により分別保管されているため、信用リスクは僅少であります。

②市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券であるさわかみファンドについては、経理規程に基づき、十分な余資をもって運用しており、また、当ファンドは短期的な市場動向ではなく長期スタンスの運用を行っているため、市場リスクに関する定量的分析は行っておりません。

③資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき担当部署が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

第22期事業年度（2018年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	2,133,702	2,133,702	—
(2) 直販顧客分別金信託	542,199	542,199	—
(3) 未収委託者報酬	305,139	305,139	—
(4) 投資有価証券	1,041,044	1,041,044	—
資産計	4,022,086	4,022,086	—
(1) 預り金	367,099	367,099	—
(2) 未払金	66,227	66,227	—
(3) 未払法人税等	327,001	327,001	—
負債計	760,328	760,328	—

第23期事業年度（2019年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	2,344,478	2,344,478	—
(2) 直販顧客分別金信託	349,000	349,000	—
(3) 未収委託者報酬	281,673	281,673	—
(4) 投資有価証券	966,687	966,687	—
資産計	3,941,839	3,941,839	—
(1) 預り金	167,716	167,716	—
(2) 未払金	65,818	65,818	—
(3) 未払法人税等	221,399	221,399	—
負債計	454,935	454,935	—

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金 (2) 直販顧客分別金信託 (3) 未収委託者報酬

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

投資有価証券はすべて投資信託であるため、決算日における基準価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照ください。

負 債

(1) 預り金 (2) 未払金 (3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。



(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

	第22期事業年度 (2018年3月31日現在)	第23期事業年度 (2019年3月31日現在)
長期差入保証金	実質的な預託期間を算定することが困難なため、時価を把握することが極めて困難であると認められるため開示しておりません。	

(注) 3. 金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

第22期事業年度 (2018年3月31日)

(単位：千円)

区分	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	2,133,702	—	—	—
直販顧客分別金信託	542,199	—	—	—
未収委託者報酬	305,139	—	—	—
合計	2,981,041	—	—	—

第23期事業年度 (2019年3月31日)

(単位：千円)

区分	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	2,344,478	—	—	—
直販顧客分別金信託	349,000	—	—	—
未収委託者報酬	281,673	—	—	—
合計	2,975,151	—	—	—

(有価証券関係)

その他有価証券

第22期事業年度 (2018年3月31日)

(単位：千円)

区分	貸借対照表 計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
① 株式	—	—	—
② 債券	—	—	—
③ その他	1,041,044	534,382	506,662
小計	1,041,044	534,382	506,662
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
① 株式	—	—	—
② 債券	—	—	—
③ その他	—	—	—
小計	—	—	—
合計	1,041,044	534,382	506,662

第23期事業年度 (2019年3月31日)

(単位：千円)

区分	貸借対照表 計上額	取得原価	差額
貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
① 株式	—	—	—
② 債券	—	—	—
③ その他	966,687	534,382	432,304
小計	966,687	534,382	432,304
貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
① 株式	—	—	—
② 債券	—	—	—
③ その他	—	—	—
小計	—	—	—
合計	966,687	534,382	432,304

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	(単位：千円)	
	第22期事業年度 (2018年3月31日)	第23期事業年度 (2019年3月31日)
繰延税金資産		
賞与引当金	5,511	5,205
未払事業税	15,974	11,294
マイナンバー関連引当金	21,961	18,683
資産除去債務	11,377	11,393
未払給与	-	3,789
一括償却資産	1,088	754
その他	1,081	1,050
繰延税金資産合計	56,995	52,171
繰延税金負債		
労働保険料確定差額還付	△90	△205
その他有価証券評価差額金	△155,139	△132,371
資産除去債務に対応した除去費用	△7,471	△6,456
繰延税金負債合計	△162,702	△139,033
繰延税金負債純額	△105,707	△86,861

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異が法定実効税率の百分の五以下であるため注記を省略しております。

(資産除去債務関係)

当該資産除去債務のうち貸借対照表上に計上しているもの

(1) 資産除去債務の概要

本社建物の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

(2) 資産除去債務の金額の算定方法

使用期間を取得から10年又は15年と見積もり、割引率は0.01%又は0.15%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 当該資産除去債務の総額の増減

(単位：千円)

	第22期事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	第23期事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
期首残高	37,107	37,158
有形固定資産の取得に伴う増加額	—	—
時の経過による調整額	51	51
資産除去債務の履行による減少額	—	—
期末残高	37,158	37,209

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、信託財産の運用並びにこれらに付帯する事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

1. 製品及びサービスごとの情報

信託財産の運用並びにこれらに付帯する事業という単一のサービスの区分の外部顧客への売上高が、損益計算書の売上高の90%を超えるため、製品及びサービスごとの売上高の記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高に区分した金額が損益計算書の売上高の90%を超えるため、地域ごとの売上高の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

1. 関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社

第22期事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
親会社	株式会社さわかみホールディングス	東京都千代田区	8,000	投資業務	被所有100	事務所不動産の貸借 役員の兼任	事務所不動産の貸借	59,107	長期差入保証金	55,806

第23期事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金(千円)	事業の内容又は職業	議決権等の所有(被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額(千円)	科目	期末残高(千円)
親会社	株式会社さわかみホールディングス	東京都千代田区	8,000	投資業務	被所有100	事務所不動産の貸借 役員の兼任	事務所不動産の貸借	66,083	長期差入保証金	61,785
							事務所不動産の差入保証金の追加	5,979		

(注) 1 取引金額・期末残高には消費税等が含まれておりません。

2 取引条件及び取引条件の決定方針等

- (1) 賃借料については、親会社が賃借している建物のうち、当社が転借している部分の事務所面積を基に計算しております。
- (2) 長期差入保証金については、親会社が賃借している建物のうち、当社が転借している部分の事務所面積を基に計算しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

株式会社さわかみホールディングス (非上場)

(1株当たり情報)

	第22期事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	第23期事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
1株当たり純資産額	871,085円72銭	950,911円32銭
1株当たり当期純利益	290,646円67銭	284,155円94銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(注) 2 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は以下のとおりです。

	第22期事業年度 (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)	第23期事業年度 (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)
損益計算書上の当期純利益	1,046,328千円	1,022,961千円
普通株式及び甲種類株式に係る当期純利益	1,046,328千円	1,022,961千円
普通株主及び甲種類株主に帰属しない金額の主要な内訳	該当事項はありません。	該当事項はありません。
普通株式及び甲種類株式の期中平均株式数	3,600株	3,600株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 独立監査人の中間監査報告書

2019年11月21日

さわかみ投信株式会社  
取締役会 御中

東陽監査法人  
指定社員  
業務執行社員  
指定社員  
業務執行社員  
公認会計士 高木康行 印  
公認会計士 猿渡裕子 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているさわかみ投信株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの第24期事業年度の中間会計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

### 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、さわかみ投信株式会社の2019年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

## (1) 【中間貸借対照表】

(単位：千円)

第24期中間事業年度  
(2019年9月30日現在)

資産の部	
流動資産	
現金及び預金	1,914,207
直販顧客分別金信託	636,000
未収委託者報酬	288,273
前払費用	7,061
その他	6,306
流動資産合計	2,851,849
固定資産	
有形固定資産 ※1	
建物 (純額)	44,440
器具備品 (純額)	8,299
リース資産 (純額)	2,380
有形固定資産合計	55,119
無形固定資産	
ソフトウェア	5,215
無形固定資産合計	5,215
投資その他の資産	
投資有価証券	968,370
長期差入保証金	61,805
その他	17,492
投資その他の資産 合計	1,047,668
固定資産合計	1,108,003
資産合計	3,959,852



(単位：千円)

第24期中間事業年度  
(2019年9月30日現在)

負債の部	
流動負債	
未払金	78,438
未払法人税等	198,613
未払消費税等 ※3	19,944
預り金 ※2	472,253
賞与引当金	17,600
リース債務	2,570
マイナビ-関連引当金	60,591
流動負債合計	850,010
固定負債	
繰延税金負債	88,085
資産除去債務	37,235
固定負債合計	125,320
負債合計	975,331
純資産の部	
株主資本	
資本金	320,000
利益剰余金	
利益準備金	80,000
その他利益剰余金	2,283,419
繰越利益剰余金	2,283,419
利益剰余金合計	2,363,419
株主資本合計	2,683,419
評価・換算差額等	
その他有価証券評価差額金	301,101
評価・換算差額等合計	301,101
純資産合計	2,984,520
負債・純資産合計	3,959,852

## (2) 【中間損益計算書】

(単位：千円)

第24期中間事業年度 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	
営業収益	
委託者報酬	1,302,691
その他売上	5,498
営業収益合計	1,308,190
営業費用	
支払手数料	2,397
広告宣伝費	75,189
調査費	6,486
委託計算費	15,157
営業雑経費	214,266
通信費	57,286
印刷費	22,096
システム使用料	93,497
外注費	25,875
その他	15,509
営業費用合計	313,496
一般管理費	
給与	208,326
役員報酬	37,914
給与手当	153,754
賞与	16,658
法定福利費	31,974
賞与引当金繰入額	17,600
業務委託費	8,951
交際費	3,145
旅費交通費	14,062
租税公課	11,392
不動産賃借料	32,539
固定資産減価償却費 ※	10,795
その他	42,196
一般管理費合計	380,985
営業利益	613,707

(単位：千円)

第24期中間事業年度  
(自 2019年4月1日  
至 2019年9月30日)

営業外収益	
受取利息	12
その他	3
営業外収益合計	16
営業外費用	
支払利息	1,048
その他	285
営業外費用合計	1,333
経常利益	612,390
税引前中間純利益	612,390
法人税、住民税及び事業税	187,610
法人税等調整額	708
法人税等合計	188,318
中間純利益	424,072

## (3) 【中間株主資本等変動計算書】

第24期中間事業年度（自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	利益準備金	利益剰余金		株主資本合計
			その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	320,000	80,000	2,723,347	2,803,347	3,123,347
当中間期変動額					
剰余金の配当			△864,000	△864,000	△864,000
中間純利益			424,072	424,072	424,072
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					
当中間期変動額合計	—	—	△439,927	△439,927	△439,927
当中間期末残高	320,000	80,000	2,283,419	2,363,419	2,683,419

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	299,933	299,933	3,423,280
当中間期変動額			
剰余金の配当			△864,000
中間純利益			424,072
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	1,168	1,168	1,168
当中間期変動額合計	1,168	1,168	△438,759
当中間期末残高	301,101	301,101	2,984,520

## 重要な会計方針

### 1. 有価証券の評価基準及び評価方法

#### その他有価証券

##### 時価のあるもの

中間決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。）

### 2. 固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法（ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については定額法）を採用しております。主な耐用年数は以下の通りです。

建物 13年～15年

器具備品 4年～15年

#### (2) 無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

#### (3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### 3. 引当金の計上基準

#### 賞与引当金

従業員賞与の支給に備えるため、支給見込み額に基づき当中間事業年度に見合う分を計上しております。

#### マイナンバー関連引当金

顧客マイナンバー収集等に備えるため、費用見込みについて合理的に見積ることができるものについて計上しております。

### 4. その他中間財務諸表作成のための基本となる重要な事項

#### 消費税等の処理方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

## 表示方法の変更

当社は、さわかみファンドを直接販売しており、当該ファンドの販売に係る費用を集計し「支払手数料」として開示してきましたが、「支払手数料」に含まれる費用のうち、近年、顧客管理等で使用するシステムの使用料等の金額が大きくなってきたことから、その内容を精査いたしました。その結果、「支払手数料」をより細分することにより、明瞭に費用の内容が表示できると考えられたことから、営業費用の「支払手数料」、「システム使用料」、「外注費」及び「印刷費」、一般管理費の「支払手数料」に区分し、それらに含めて表示することといたしました。なお、一般管理費の「支払手数料」は「その他」へ含めております。

注記事項

(中間貸借対照表関係)

※1 有形固定資産より控除した減価償却累計額

(単位：千円)

	第24期中間事業年度 (2019年9月30日現在)
建物	39,310
器具備品	28,895
リース資産	18,020

※2 預り金

(単位：千円)

	第24期中間事業年度 (2019年9月30日現在)
投資信託の買付代金の顧客からの預り金	7,429
投資信託の解約代金の顧客からの預り金	21,526
投資信託の解約に伴う源泉徴収額	439,251

※3 消費税等の取扱い

当中間事業年度において、仮払消費税等及び仮受消費税等は、相殺のうえ、流動負債の「未払消費税等」として表示しております。

(中間損益計算書関係)

※ 固定資産減価償却費

減価償却実施額は、次のとおりであります。

(単位：千円)

	第24期中間事業年度 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
有形固定資産	7,194
無形固定資産	3,600

(中間株主資本等変動計算書関係)  
 第24期中間事業年度(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 発行済株式に関する事項

(単位:株)

株式の種類	第24期中間事業年度 期首株式数	増加	減少	第24期中間事業年度末 株式数
普通株式	1,080	—	—	1,080
甲種類株式 ※	2,520	—	—	2,520
合計	3,600	—	—	3,600

※甲種類株式は、議決権を有しない種類株式であります。

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の 種類	配当金の 総額(千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年6月14日 定時株主総会	普通 株式	129,600	120,000	2019年3月31日	2019年6月14日
2019年6月14日 定時株主総会	甲種類 株式	302,400	120,000	2019年3月31日	2019年6月14日

決議	株式の 種類	配当金の 総額(千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年9月18日 臨時株主総会	普通 株式	129,600	120,000	2019年8月31日	2019年9月18日
2019年9月18日 臨時株主総会	甲種類 株式	302,400	120,000	2019年8月31日	2019年9月18日

(2) 基準日が第24期中間事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が第24期中間事業年度  
後となるもの

該当事項はありません。

(金融商品関係)

金融商品の時価等に関する事項

中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

第24期中間事業年度（2019年9月30日）

(単位：千円)

	中間貸借対照表 計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	1,914,207	1,914,207	—
(2) 直販顧客分別金信託	636,000	636,000	—
(3) 未収委託者報酬	288,273	288,273	—
(4) 投資有価証券	968,370	968,370	—
資産計	3,806,852	3,806,852	—
(1) 預り金	472,253	472,253	—
(2) 未払金	78,438	78,438	—
(3) 未払法人税等	198,613	198,613	—
負債計	749,304	749,304	—

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項  
資 産

- (1) 現金及び預金 (2) 直販顧客分別金信託 (3) 未収委託者報酬

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

- (4) 投資有価証券

投資有価証券はすべて投資信託であるため、中間決算日における基準価額によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

負 債

- (1) 預り金 (2) 未払金 (3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注) 2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

長期差入保証金は実質的な預託期間を算定することが困難なため、時価を把握することが極めて困難であると認められることから開示しておりません。



(有価証券関係)  
その他有価証券

第24期中間事業年度 (2019年9月30日)

(単位: 千円)

区分	中間貸借対照表 計上額	取得原価	差額
中間貸借対照表計上額が取得原価 を超えるもの			
① 株式	—	—	—
② 債券	—	—	—
③ その他	968,370	534,382	433,988
小計	968,370	534,382	433,988
中間貸借対照表計上額が取得原価 を超えないもの			
① 株式	—	—	—
② 債券	—	—	—
③ その他	—	—	—
小計	—	—	—
合計	968,370	534,382	433,988

(資産除去債務関係)

資産除去債務の総額の増減

(単位：千円)

	第24期中間事業年度 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
期首残高	37,209
有形固定資産の取得に伴う増加額	—
時の経過による調整額	25
資産除去債務の履行による減少額	—
中間期末残高	37,235

(セグメント情報等)

『セグメント情報』

第24期中間事業年度 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントの概要  
当社事業は、信託財産の運用並びにこれらに付帯する事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。
2. 報告セグメントごとの営業収益、利益又は損失、資産、負債その他の金額の算定方法  
当社は報告セグメントが単一であることから、記載を省略しております。
3. 報告セグメントごとの営業収益、利益又は損失、資産、負債その他の金額に関する情報  
該当事項はありません。
4. 報告セグメント合計額と中間財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容 (差異調整に関する事項)  
該当事項はありません。

『関連情報』

第24期中間事業年度（自 2019年4月1日 至 2019年9月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

信託財産の運用並びにこれらに付帯する事業という単一のサービスの区分の外部顧客への営業収益が、中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、製品及びサービスごとの営業収益の記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益に区分した金額が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、地域ごとの営業収益の記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への営業収益のうち、中間損益計算書の営業収益の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

『報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報』

該当事項はありません。

『報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報』

該当事項はありません。

『報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報』

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	第24期中間事業年度 (2019年9月30日)
1株当たり純資産額	829,033円57銭

1株当たり中間純利益金額及び算定上の基礎は以下のとおりです。

	第24期中間事業年度 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり中間純利益	117,797円79銭
中間損益計算書上の中間純利益	424,072千円
普通株式及び甲種類株式に係る 中間純利益	424,072千円
普通株主及び甲種類株主に帰属しな い金額の主要な内訳	該当事項はありません。
普通株式及び甲種類株式の期中平均 株式数	3,600株

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

公開日 2019年12月11日  
作成基準日 2019年11月21日

本店所在地 東京都千代田区一番町29-2  
お問い合わせ先 (代表) 03-5226-7791